科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
ヘルスアセスメントⅡ	NSP22__001	必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
岩淵　正博　他	410	masahiro.iwabuchi		火・木曜日 12:10～13:00	

授業の目的・概要	ヘルスアセスメントⅠで学んだフィジカルアセスメントの技術を基盤とし、事例を用いて、看護の対象の健康状態をアセスメントする方法、アセスメントした情報をもとに看護過程を展開する方法を学ぶ。技術演習では、グループワークを主として、学生同士、患者、看護師役となり、看護場面を想定して実践的に学ぶ。
授業形式・方法	☑対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☑講義 ☑演習 ☐実習 ☐実技 ☐PBL ☐反転授業 ☐ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ ☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ ☐ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ ☐実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ ☐その他　（　　）
学習上の助言	ヘルスアセスメントⅠで学んだフィジカルアセスメントの技術と看護援助方法論Ⅴで学んだ看護過程展開の知識を用いる。疾患や治療の理解も必要となる。本科目の学びは、基礎看護学実習Ⅱの準備に直結するため、主体的・計画的に予習・復習に取り組み、知識・技術・態度を確実に身に付けることを望む。
教科書	看護がみえるVol.3フィジカルアセスメント/医療情報研究所/メディックメディア/2019 看護がみえるvol.4 看護過程の展開/メディックメディア/2020
参考書	適宜紹介する。
外部教材	必要に応じ紹介する。

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	看護過程の展開において求められるヘルスアセスメントの目的と意義について説明できる。	NS(1)~(3)
②	対象者のヘルスアセスメントの基礎的な問診技術について説明し、実践できる。	NS(1)~(3)
③	対象者のヘルスアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションについて説明し、実施できる。	NS(1)~(3)
④	模擬患者に実施したフィジカルアセスメンで得た情報を記録できる。	NS(1)~(3)
⑤	模擬患者に実施したフィジカルアセスメントを評価し、その内容を記述できる。	NS(1)~(3)
⑥	看護学生としての対象者への責任を認識し、主体的・積極的に講義・演習・課題に取り組む。	NS(1)~(5)

授業計画

回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)	
1	授業ガイダンス、事例を用いたヘルスアセスメントと看護過程の展開	講義・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
2	呼吸機能に問題を持つ人のアセスメント	講義・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
3	呼吸機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
4	呼吸機能に問題を持つ人の看護過程の展開	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
5	呼吸機能に問題を持つ人の看護過程の展開	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
6	循環機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
7	循環機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
8	消化機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
9	消化機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
10	脳神経機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
11	脳神経機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
12	運動系機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
13	運動系機能に問題を持つ人のアセスメント	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
14	運動系機能に問題を持つ人の看護過程の展開	グループワーク・演習	予予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

15	運動系機能に問題を持つ人の看護過程の展開	グループワーク・演習	予習：事前課題に取り組む 復習：学びをまとめる	1
試	筆記試験　達成度評価・評価ポイントを参照			

達成度評価

総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
		50	30	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	5	5
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	✓	定期試験において知識の定着を確認する。	試験問題・解答用紙を返却し、出題意図・解答について解説する。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①	✓	提示課題に対する内容の到達度を評価する。 提示課題に対する内容の記述が不十分なレポートは再提出を求める。	レポートにコメントを付し、返却する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①		グループワーク、演習への参加態度を評価する。 各自提示された事前取り組み、時間内に目標達成できるように協力する。	授業時間内に評価をコメントする。
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥	✓		

備考

他担当教員	小石川好美、山﨑さやか
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として 40 年の臨床経験を有し、臨床実践と学問的な知識、技術を併せて教授する
実践的授業の内容	各教員が看護師としての実務経験をもとに、学生が臨床場面をイメージして学習できるよう指導を行う。代表的な症状や訴えをイメージできるようフィジカルアセスメントトレーニングモデルを用いたり、学生が患者役を模擬するなどで演習を行う。
その他	・課題等の提出は期日を厳守すること。 ・今後社会情勢等によってシラバスの変更がありえる。